

〔土田医院 内科・小児科・リウマチ科〕

【研修の特徴と内容】

＜基本理念と特徴＞

地域医療を担う家庭医としての重要な役割は、長期にわたり家族の診療、及び健康管理を継続していくことにある。そのためには、良好な人間関係、信頼関係の構築が必須の条件であり、患者さんの言い分に耳を傾け、その訴えに応じて適切な触診、聴診、及び検査を行うことである。そして、それらを診療録に正確に記載することと、患者さんの求めに対して、常に誠実な対応に努めることである。

1. 成人の一般内科診療においては、生活習慣病と呼ばれる高血圧症、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、内臓肥満といった病態を、メタボリック症候群の概念の下に、総合的に理解するよう努める。動脈硬化の進展阻止という観点から、相互に関連付けた診療を目指す。
2. 地域医療の中で、家庭医として小児科診療を分担することの意味を考える。①一つの家族を2世代ないし3世代に渡り診療していくことで、遺伝的素因、体質といった問題を理解しやすくなる。②小児期から成人まで、継続して診療することで、早期から生活習慣病の発症を防止する生活指導が可能となる。その他、小児科診療では感染症対策が重要となり、当院ではワクチン接種を積極的に奨励している。そのために、ワクチン接種の意義について、免疫学的側面を含めて、十分な理解をして、副作用についても適切な対策を知ることが必要である。感染症診療に迅速キット等の新しい検査を導入することにより、感染症診断の精度を高め、治療のタイミングを早め、家族内での感染拡大防止の方向を目指す。
3. 家庭医としての役割と同時に、リウマチ専門医として関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎等の膠原病の早期発見と適切な治療の導入を図る。免疫学的検査の正確な理解と、非ステロイド系消炎鎮痛剤、ステロイド、及び免疫抑制剤の的確な使用法を学ぶ。リウマチ診療を専門とするリウマチ内科及び整形外科との病診連携の構築と、適切な紹介時期の認識が必要である。

【教育に関する行事】

肝臓疾患検討会——月に1回（主として第三土曜の午前診療終了後）、消化器内科医を交え、超音波所見を中心として、肝疾患を中心に検討する。

指導医等

院長：土田 哲雄

研修実施責任者

院長：土田 哲雄